

技術・家庭科（家庭分野B）学習指導案

日時 令和6年11月15日

会場 山形市立第三中学校 2階多目的教室

指導者 山形市立第六中学校 横山 裕美

対象 山形市立第六中学校 2年4組（31名）

1. 題材 日常食の調理と地域の食文化 B（3）
小題材 山形の食のよさを知ろう B（3）ア（エ）

2. 目標

健康・安全で豊かな食生活に向けて考え、工夫する活動を通して、地域の食文化に関する知識及び技能を身に付け、適切に調理することができる。

3. 指導にあたって

（1）生徒観

本題材の「食文化」について、生徒は家庭分野としての学習は初めてであるが、給食では郷土食である「芋煮」「山菜汁」「納豆汁」「棒だら煮」などの料理が出され、食している。それらの歴史や食材、調理の特徴などの情報も給食センターから提供され、校内放送で耳にしている。

そこで食文化に関して、以下のようなアンケートを行った。（調査対象 27名）

他国の料理や食材、食文化について関心がありますか。	ある 11名（40.8%） どちらかというところある 9名（33.3%） どちらでもない 4名（14.8%） どちらかというところない 1名（3.7%） ない 2名（7.4%）
山形の食材や食文化について関心がありますか。	ある 7名（26.0%） どちらかというところある 9名（33.3%） どちらでもない 4名（14.8%） どちらかというところない 2名（7.4%） ない 5名（18.5%）
次の料理や食材の中であなたが聞いたり、知っていたりするものをすべて選択してください。	芋煮 27名（100%） 玉こんにゃく 27名（100%） 納豆汁 26名（96.3%） わらびの煮物 23名（85.2%） （野菜の）だし 20名（74.1%） おかひじき 20名（74.1%） ゆべし 18名（66.7%） 青菜漬 16名（59.3%） おみ漬 12名（44.4%） 鯉の甘煮 12名（44.4%） 寒鰯汁 11名（40.7%） 山形セルリー 11名（40.7%） ひょう 7名（30.4%） もつてのほか 6名（22.2%）

上記より、山形の食材や食文化は身近だからこそ、地域よりも他国の食材や食文化への関心の方が高い結果になったと考える。また県内では、核家族化の進行や共働き世帯の増加によって、食の外部化や簡便化の傾向が年々強まっている。授業の中で、おせち料理を話題にしたときに8割の生徒が自宅では食べないと挙手をしたことから、これまで家庭や地域で受け継がれてきた食文化の継承はさらに困難になり、生徒が食文化に関わりを持つ機会も減少していると感じている。そこで、まずは生徒が地域の食や食文化について学ぶ必要感を持つことが重要であると考えた。地域の食材に触れたり、調理したり、食べたりすることで地域の食に対する自分なりの思いや考えを持ち、食や食文化について考え、自分の思いを言葉で語れる生徒の姿を期待したい。

(2) 教材観

本題材では、地域の食文化や食材を用いた和食の調理について学習する。生徒が「学びの主体」となって学習に取り組むために、地域で活動している野菜ソムリエより、野菜を生産している方の思いや生産を続ける上での困難なこと、山形で栽培される野菜の種類や特徴について聞く機会を設ける。その上で生徒がこれまで経験してきたことや体験してきたこと、習得した知識を使って地域の食のよさについて話し合う場面を設ける。さらに食文化について多角的に考え、新たな発見につなげていく。また、地域の食材を利用した調理実習では、山形の食を知ることで、自分の生活がより鮮やかで豊かなものになると実感できるようにしたい。

これらの学習を通して食文化について理解することで、地域を見る視点が変わり、食について深く考えることができる題材である。

(3) 指導観

本題材における「深い学び」の姿と手立て

深い学びの姿	生徒の深い学びの具体的な様子	教師の手立て
○自分に必要感のある問題を把握する	・自分が知っている他にも様々な地域の食の特徴があることを知り、自分の思いや願いを具体的にまとめている。	・食の継承の視点で、自分の思いや願いを具体的にまとめることができるように、野菜ソムリエの講話を設定する。
○多角的・多面的な視点で考え、最適解を見つける	・山形の食よさについて自分の考えを広げたり、深めたりしている。	・山形の食のよさについて自分の考えを広げたり、深めたりするために、より多くの人と交流できる場面を設定する。
○学んだことと生活や社会を結び付けて考える	・山形の食のよさについて学んだことを、今後の食生活で生かす場面につなげようとしている。	・今後の食生活で生かす場面につなげるために、ポートフォリオにまとめ共有する場面を設ける。
○自己の学びを俯瞰して振り返りを行う	・地域の食に関して、学習前よりも学習後の方が、考えが広まったり深まったりしていることを実感している。	・学習の広まりや深まりを実感できるようにするために、学習前後にイメージマップを記入させ、共有する時間を確保する。

4. 題材の評価規準

地域の食文化について理解しているとともに、地域の食材を用いた和食の調理が適切にできる。

(知識・技能)

5. 指導計画と評価規準（6時間計画）

	学習活動	教師の手立て	○：評価規準 ◇：評価方法
1 2 校 時	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージマップやクイズを通して、どの程度のことを知っているか、実態に気付く。 ・野菜ソムリエの講話を聴き、山形の食の特徴や生産者に関わる人たちの思いを知る。 ・地域の食のよさを考え交流する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の山形の食に対しての考えの広がりを感じられるように野菜ソムリエの講話や仲間との話し合いをし、イメージマップに書けるようにする。 	<p>○イメージマップを用いて、地域の食材を用いることの意義について理解している。(知識・技能)</p> <p>◇話し合いの様子 付箋紙の記入内容</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の食材を活用した調理実習に向けて、調理の仕方や工夫点を身近な人から聞いたり、調べたりしたことを基に調理計画を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで経験したことや身近な人に聞いてきたことを班の中で話し合いながら、各班で調理計画を立てられるようにする。 	
4 5	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の食材を活用した調理実習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各班の調理計画を把握し、ポイントを押さえた調理ができるようにする。 	<p>○地域の食材を用いた和食の調理ができる。(知識・技能)</p> <p>◇実習の様子</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージマップに書き加えたり、地域の食についての自分の考えをまとめたり伝えたりする活動を通して、自分の変容に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本題材を通して、山形の食に対しての考えの広がりを感じられるようにイメージマップに書き加えたり、山形の食について自分の言葉で考えをまとめたりする活動を設定する。 	<p>○地域の食文化について理解している。(知識・技能)</p> <p>◇1枚ポートフォリオ</p>

6. 本時の学習

(1) 目標

山形の食のよさについて考えることができる。

(2) 展開

学習活動【学習形態】	指導上の留意点		
<p>1. 前時までの振り返りの共有を行い、新しい視点を見つける。 【全体】</p> <p>2. 山形の食や食材を紹介した映像を視聴する。 【全体】</p>	<p>・感想を発表するためにポートフォリオを見て、前時の野菜ソムリエの講話を思い出す。</p> <p>・山形の食について、どんなことを知っているか実態をつかむためにイメージマップで出されたキーワードの傾向を見る。</p> <p>・山形には様々なおいしい食材があり、それを求めて遠くから山形を訪れる人がいることや、他の地方に行くと食べないものも山形では食べることがあるということに気付かせるために映像を視聴する。</p>		
<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td style="padding: 5px;">課題</td> <td style="padding: 5px;">山形の食のよさとは何だろう。</td> </tr> </table>		課題	山形の食のよさとは何だろう。
課題	山形の食のよさとは何だろう。		
<p>3. 山形の食のよさを考える。 【グループ】</p>	<p>・自分の考えを深めるために山形の食にはどんなよさがあるのか、各自の考えをまとめ交流をする。</p> <p>・自分の考えを記録用紙に記入しながら話し合う。</p> <p>・各グループで話してきたことを共有する。</p>		
<p>○本時における生徒の「深い学び」の具体的な姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形で収穫される野菜は四季がはっきりしているので、種類が多いことや味が良いことに気付いている。 ・山形では様々な野菜が収穫されているので、食卓によく山形の食材を使った料理が出されていることに気付いている。 ・山形には季節ごとに郷土料理があることに気付いている。 ・保存しやすく加工され、1年を通じて野菜が食べられるような工夫がされていることに気付いている。 <p>★「深い学び」を実現するための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いを広げられるように、グループを回って発言を聞き返したりつぶやきを拾ったりする。 ・より多くの考えに触れるために話し合いの方法を工夫し、新たな気付きをたくさんできるようにする。 			
<p>4. 本時を振り返り、まとめる。 【個→全体】</p>	<p>・前時や本時の活動を通して感じたことを自分の言葉でまとめる。</p>		

(3) 評価

山形の食のよさについて考えることができたかを、話し合いの様子や付箋紙の記入内容で評価する。